

東京新聞
2012/07/19

脱原発目指し 地方議員連携

福島で発足会



脱原発を目指す地方議員で発足した「グリーンテーブル」は18日、福島県いわき市のスパリゾートハワイアンズで

グリーンテーブル

脱原発を目指す地方議員のネットワーク「グリーンテーブル」の発足の会が18日、福島県いわき市であった。民主党議員を軸に、まずは約六十人が集まり、再生可能エネルギーの普及や省エネなど地域の取り組みを情報共有しながら、草の根からの脱原発の意思を国のネット

政に反映させていく狙いだ。この日は福島県議や首都圏の市議、区議ら約二十五人が出席した。代表に選ばれた山田実滋賀県議は「3・11で原発の安全神話が崩れたのに、国は方向転換をできないでいる。これからは小規模分散型社会が大切で、地方議員こそ力を発揮できるのではないか。それぞれの足元の取り組みを共有し、原発に頼らない国へと変わる起爆剤にしたい」とあいさつ。古市三久福島県議は「民主党の中の地方議員のネットワークとして、党中央に地方の意見をしっかりと反映させていかなければいけない」と訴えた。

菅直人前首相も国政の動向を説明し、政府が八月中に決めるとしている将来の原発比率の議論について「15%案に誘導する気配が強く、国民の声を聴き方もおかしい。八月（に決めること）はちょっと早いのではないかと」と批判。「再生可能エネルギーは日本全体の活性化にもなる。皆さんと共有しながら運動を進めたい」と呼び掛けた。